

平成17年度 電力需給状況

需要の概要

平成17年度の販売電力量は、279億6千8百万kWh時、前年比 102.8%となった。

〔需要の内訳〕

家庭用などの「電灯」は、夏場の気温が高めに推移したことや12月が記録的寒さとなったことなどから、前年比 102.6%となった。

事務所ビル・大型商店などの「業務用電力」は、電灯と同様の気温要因に加え、自家発電止などから前年比 103.7%となった。

産業用の「大口電力」は、紙・パルプ、化学、機械などが生産増や自家発電止などから前年を上回り、前年比 104.6%となった。

需要実績

(百万kWh時、%)

		電力量	前年比
特定規模需要 以外の需要	電 灯	9,410	102.6
	電 力	2,210	98.7
	計	11,620	101.8
特定規模需要 (自由化対象)	業務用電力	6,087	103.7
	産業用電力	10,261	103.3
	うち大口電力	(7,782)	(104.6)
	計	16,348	103.5
販売電力量 計		27,968	102.8

融 通	7,032	85.4
-----	-------	------

注1. 特定規模需要とは、特別高圧電力および高圧電力の合計で自由化の対象。
 2. 17年4月より自由化範囲が拡大されたことに伴い、16年度以前の需要区分と一部異なる。
 前年比は、前年同期の実績を現在の区分に合わせることで算定した。

大口電力の主な産業別内訳

(百万kWh時、%)

	電力量	前年比		
		17年度	16年度	15年度
紙・パルプ	1,377	109.2	101.7	100.3
化 学	1,644	105.9	105.2	103.9
鉄 鋼	952	100.7	102.1	105.4
機 械	1,618	105.2	107.5	100.8
そ の 他	2,191	102.2	102.0	101.5
合 計	7,782	104.6	103.7	102.2

供給の概要

- 原子力は、前年に比べ定検の日数が少なかったことから、前年比 110.9%となった。
- 水力は、湯水により前年比 60.3%となった。
- 火力は、水力が減少したものの、原子力の増加や融通送電の減少などから、ほぼ前年並み(98.6%)となった。

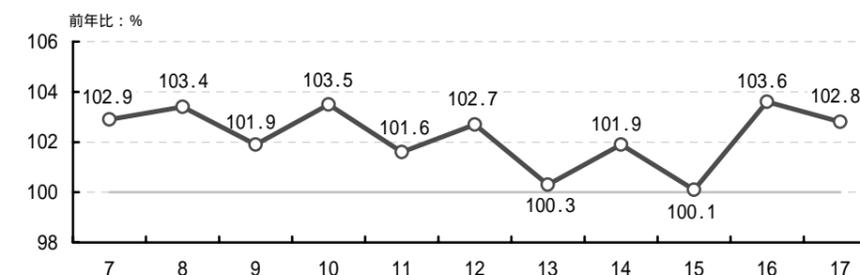
供給実績

(百万kWh時、%)

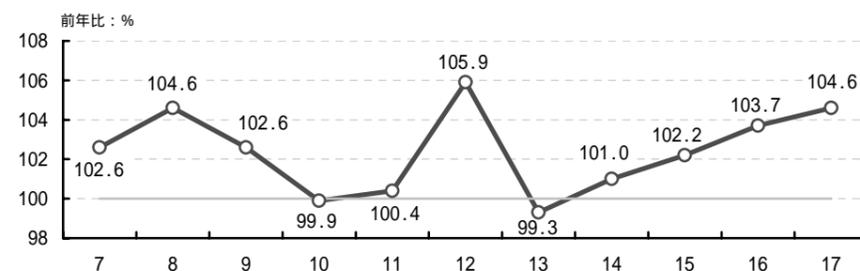
	電力量	前年比	備 考
原子力	(39) 15,210	110.9	出水率 74.1% (16年度出水率 123.3%)
水 力	(7) 2,578	60.3	
火 力	(54) 20,910	98.6	
発受電計	(100) 38,698	98.7	
その他	317		
供 給 計	38,381	98.6	

注.()内は構成比

(参考1) 販売電力量の前年比の推移



(参考2) 大口電力の前年比の推移



(参考3) 4県都平均気温

		7月	8月	9月	7~9月
夏季	実績	27.0	27.9	25.7	26.9
	平年差	0.5	0.6	1.9	1.0
	前年差	1.7	0.3	0.3	0.3
		1月	2月	3月	1~3月
冬季	実績	6.0	7.2	8.9	7.4
	平年差	0.2	1.1	0.4	0.3
	前年差	0.1	1.2	0.2	0.3

(参考4) 各県別の需要状況

(百万kWh時、%)

	徳 島	高 知	愛 媛	香 川
販売電力量計	(102.9) 6,421	(100.5) 4,649	(103.4) 9,688	(103.4) 7,210

注.()内は前年比